

死亡率

男性 3位

女性 1位

人口動態統計による
がん死亡データ (2016年)

40歳代から増加し始め、
高齢になるほど罹患率が
高くなる

大腸がん

約20年間で患者数が2倍以上に増え、罹患率が最多となりつつある大腸がん。
適切に治療すれば治りやすいといわれますが、見つかりにくいのが特徴です。
早期発見のためには毎年の検診は重要です。

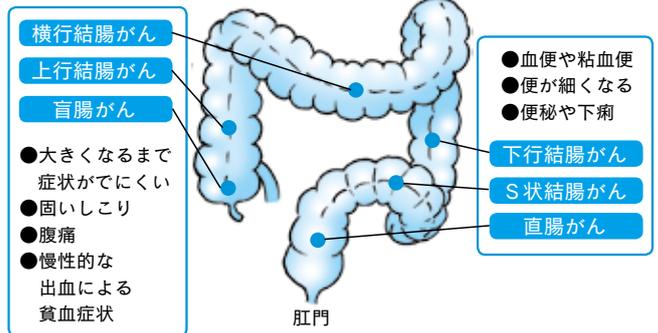
肛門から遠い部位にできたがんは見つかりにくい

日本人はS状結腸と直腸にがんがしやすいといわれます。部位によって直腸がん、S状結腸がん、下行結腸がん、横行結腸がん、上行結腸がん、盲腸がんに分類されます。大腸がんは、血液がついた便で気づくことが多いのですが、上行結腸がんや盲腸がんは便中の血液が攪拌されるため、見つかりにくいといわれます。

大腸がんは症状のないうちに検診・検査で見つけることが大事。図に大腸がんの種類と初期症状を示しましたので、これらの症状が続くときは早めに医療機関で検査を受けましょう。

なお、大腸がん対策としては、検診・検査をきちんと受けたうえでの2次予防が大切です。

大腸がんの種類と初期症状

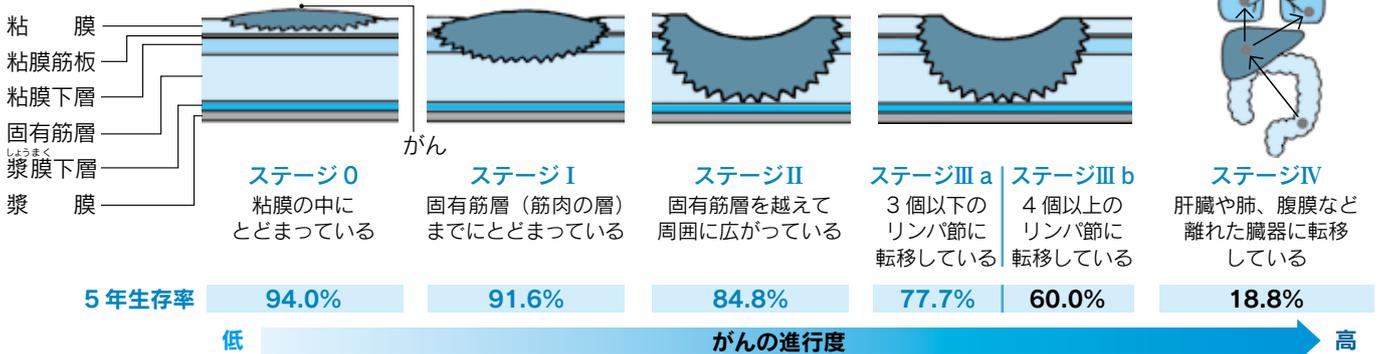


大腸がんの主な要因 運動不足、肥満や過体重、肉類の過剰摂取、大腸がんの家族がいる

大腸がんの主な症状 早期は無症状。進行すると血便、便秘や下痢のくり返し、便通異常、腹痛

ステージⅢまでに発見されれば治る確率はかなり高い

大腸がんは、がんのなかでも適切に治療すれば治りやすいといわれています。がんの進行度を示すステージⅢaまでに発見されれば5年生存率は80%近くなります。検査を受け、早期発見することが大切です。



出典: 大腸癌治療ガイドライン医師用 2016年版 資料より作成
ステージ分類は「大腸癌取扱い規約」第6版による

大腸がんの検査

便潜血検査

便でがんの可能性を調べる

大腸がん検診で行われる基本的な検査です。専用のスティックで便の表面をこすって採取し、その中に血液が混じっていないか調べます。手軽な検査ながら、大腸がんを発見する有効な検査です。この検査で陽性反応が出たら、大腸内視鏡検査などを受けます。

